

言語学特殊講義	言語には、意味を表すために統語構造媒介とし、音声化するという仕組みがある。特に複雑な意味を伝えたいときには、聞き手に理解しやすいような特別の統語的方法を備えている。この方法は同時に、発話者とその意味を文法に組み込みやすくするものでもある。このような方法をこの講義では、「知覚に関係した統語的仕組み」(Perception-related syntactic strategies)と呼ぶことにする。講義では、以下のテーマを取り上げる。1. 紹介、2. 日本語の「が」/「を」交替、3. 日本語の「が」/「の」交替、4. 日本語の二重「に」格の制約、5. 日本語の連帯修飾節における残留代名詞、6. ペルシア語の関係節構造、7. 節の名詞化と補語、8. 英語におけるこのような統語的仕組み、9. タガログ語の関係節構造: 関係節と被修飾語の順序。講義のテキストとして、拙論(Perception and syntactic strategies, Ms)を使う。	1. 特定の現象が、知覚と関係する統語的仕組み(PRSS)して捉えることができること。 2. 特定の統語現象の理解。 3. PRSSの意味するもの。 4. 類似の現象を、学習者が知っている言語の中から探すことができるかどうか。 5. 講義内容の全体的理解。									
言語学特殊講義	台湾の主として山地に住む原住民語族は、平地に住む漢民族とはまったく異なり、オーストロネシア系の言語を話している。オーストロネシア語族は太平洋のポリネシア、メラネシア、インドネシアなどの広大な地域で行われている語族であるが、台湾原住民語族は、ほかのオーストロネシア系の言語で失われてしまった古い特徴をよく保存しており、オーストロネシア比較言語学上、非常に重要な位置を占めている。この講義では、比較言語学の方法論の基礎を学び、その応用として、台湾原住民語族に基づいてオーストロネシア祖語を再構築する。それと同時に、台湾原住民語族のさまざまな特徴について学ぶことにする。	(1)比較言語学の基礎を習得する、 (2)オーストロネシア語族の概略を学習する、 (3)台湾原住民語族の概略を学習する、 (4)その中でもとくに興味深いトピック、たとえば「動詞の構造」「接中辞」「類別接頭辞」「民俗分類: 男の魚と女の魚」「言葉の男女差」などについての知識を深め、英語や日本語との類似点・相違点についての理解をも深める。									
言語学演習 (音声と音韻)	言語研究をする上で基礎になる演習である。2年生向けである。一般音声学の基礎知識を身につけるとともに、母音・子音の聞き取りおよび発音訓練をする。	1. ヒトの言語音の調音のしくみを理解する。 2. ヒトの言語音をすべて記述できる国際音声字母(IPA)を覚える。 3. 母音・子音の聞き取りおよび発音ができるようになる。 4. 音声を聞いて国際音声字母(IPA)で記述できる。 5. 一般音声学的視点から、英語や日本語などの個別言語の音声を分析できる能力を身につける。									
言語学演習 (意味と統語)	平易な文章で書かれたテキストを使って、日本語の文法の身近なテーマを取り扱う。授業は完全な学生主導の討論形式を採るので、積極的な授業参加が求められる。	母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深める。									
言語学演習 (意味と統語)	平易な文章で書かれたテキストを使って、日本語の文法の身近なテーマを取り扱う。授業は完全な学生主導の討論形式を採るので、積極的な授業参加が求められる。	母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深める。									
言語学演習 (意味と統語)	オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language filesを読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。前期は、単語の構造、新しく語を作りだす仕組みについて学習する。	1. 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。 2. 説明を理解すること。 3. 練習問題を自分で解く。 4. 言語学の他の分野にも関心を持つ。									
言語学演習 (意味と統語)	オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language filesを読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。後期は、文の構造、新しく文を作りだす仕組みについて学習する。	1. 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。 2. 説明を理解すること。 3. 練習問題を自分で解く。 4. 言語学の他の分野にも関心を持つ。									
個別言語演習 (アメリカ・ヨーロッパ地域)	「ウェールズ語」Yn y cwrs hwn canolbwyntir ar iaith lafar y Gymraeg ac edrych ynfras ar rai pynciau cysylltiedig: ei hanes a'i pherthynas ac ieithoedd eraill, ei llenyddiaeth, y gynghanedd, a hwyrach ychydig o ddawnsio a cherdoriaeth. ウェールズ語は西南英国のウェールズ地方の言葉である。ケルト系の言語でありブルトン語やアイerland語に似ている。授業では、日常ウェールズ語を中心にすが、国と言語の歴史及び比較言語学や定型詩も少し勉強したり、さらに現代および中世紀の文章を読んだりする。	ウェールズ語の基礎勉強 (初心者向け)を行う。									

言語情報処理学演習(2・3年生)	日本語の言語データをコンピュータに入力し、さまざまな研究を行う。入力ソフトはEXCELを使う。また、調査単位には 単位を用いる。	EXCELで日本語のテキストデータを入力する。調査単位は 単位とする。日本語の語彙調査および語彙索引を作成する。											
言語情報処理学演習(4年生)	言語情報処理用語の研究をする。	言語情報処理の用語を研究し、記述する。											
言語情報処理学演習(4年生)	言語情報処理用語の研究をする。	言語情報処理用語を研究し、記述する。											
言語情報処理学演習	Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic.Programming consists of entering data as logical permises;running the programconsists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses.Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work innatural language.First term-basic Prolog, an introduction for beginners.Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the firstterm's work.	プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。											
言語情報処理学演習	Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic.Programming consists of entering data as logical permises;running the programconsists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses.Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work innatural language.First term-basic Prolog, an introduction for beginners.Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the firstterm's work.	プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。											
卒業研究	英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。Semesterあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導(授業時間外)が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。	英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる											
卒業研究	英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。Semesterあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導(授業時間外)が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。後期は、英文レポートの提出が求められる。	英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げる											
GP項目別到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)													
総合的GP到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)			卒業論文の内容に関する到達目標の達成度が基準に達していること。(到達度判定基準は別表)										

卒業論文の達成度判定基準

内容に関する到達度判定		
判定する項目		判定
検討中	検討中	

